

野球部のインスタグラム 紹介される！

本校野球部の公式インスタグラムが7月2日（日）付けの朝日新聞に紹介されました。学校や生徒の様子がタイムリーにわかるよう、これからも配信していきます。

野球部の魅力 SNSで伝える



部員5人の羽後は佐藤監督も練習に加わるため、SNSに投稿する動画はイスにスマホを固定して撮影することも多い。6月9日、羽後町



全国高校野球選手権記念
秋田大会
主催/朝日新聞社・読売野球
第85回

球児減少に危機感 若い世代向け発信

全国の高校球児が減り続けている。人口減少がとまらない県内では、野球部の存続にも直結しかねない。野球の魅力を伝え、野球部に関心を持ってもらおうと、SNSに活路を求めるチームが増えている。

6月下旬のある日のツイッ
ターでは、投球練習を紹介
「①リリースポイント②左手
の引き③軸足の蹴り この3
点を意識することでコントロ
ールが安定し、球威も上がり
ます」という説明とともに、
3点を意識する前後の
「ピフオー・アフター」動画
を投稿した。
SNSは今春、平成（横手
市）から羽後に赴任した佐藤
悠也監督（57）が始めた。
羽後は全校生徒88人、25年
が5人に増えた。その一人、

前と比べると、5分の1以下
に減った。佐藤監督の赴任直
後、部員は3年生と2年生が
各1人の2人だけ。単独では
試合に出られず、連台チーム
を組む。
「スポーツ少年団で野球を
始める子どもが減っている。
野球の楽しさ、魅力を伝えな
ければと思った」。配信する
ときは、「なぜ、その練習を
するのか」という意図を伝え
て練習内容の「見える化」を
心がける。
SNSを開設してまもなく、
1年生3人が入部。部員
が5人に増えた。その一人、

小西桂太選手は中学までは空
手の選手だった。
「ずっと野球をやりたいかつ
たが、未経験だったので入部
を迷っていた。インスタで練
習の動画を見て、『これなら
やっていけそう』と不安が消
えた。近いうちに、単独チー
ムで試合をすることが目標
だ」。

部員50人以上を抱える大所
帯の秋田修英（大仙市）も今
年、野球部のインスタを開設
した。
きっかけは、今春の新入部
員が11人ととまらなかったこと
だ。近年では最も少なかった
という。危機感からSNSの
発信力を入れる。
投稿するのは、野球部の活
動だけに限らない。学校の運
動会や、教室でテスト勉強に
取り組む姿など、学校生活を
送る部員たちの様子が頻繁に
登場する。
担当するコーチの後松成人
教諭（50）は「野球だけではな
く、学校生活を充実させ、両
立している部員の姿も見てほ
しい」と狙いを語る。林大空
主将も「学年に関係なく、仲
の良さが自慢。SNSでチー
ムの雰囲気が伝わる」。

秋田修英の野球部のインスタグラムには、部員の学校生活の様子が頻繁に登場する＝同校野球部のインスタから

秋田修英の野球部のインスタグラムには、部員の学校生活の様子が頻繁に登場する＝同校野球部のインスタから

県高野連の和田史雄理事長
は「少子化で部員が減る中
で、若い世代に影響力のある
SNSを駆使し、野球の魅力
を伝えてくれるのは良い取
組みだ」と評価している。
（滝沢隆史）